

### Ⅲ. 傷病者発生直後の対応

Q1. 応急手当ができるようになるためには、どのようなことをすればよいのでしょうか？

A1. 応急手当の講習を受けることで適切な応急手当ができるようになります。忘れやすいので定期的に受講しましょう。

## 1. 応急手当

傷病者が発生した場合、その場で応急処置を速やかに施すことで、救命効果が向上し、治療の経過にも良い影響を与えます。

事前に応急手当の講習会に受講して、基本的な応急手当の手法を取得しておきましょう。

### 重傷者を放置した場合の死亡率

- 多量出血の人を放置 ⇒ 30分で死亡率が約50%
- 呼吸の止まった人を放置 ⇒ 10分で死亡率が約50%
- 心臓が止まってしまった人を放置 ⇒ 3分で死亡率が約50%

#### (1) 応急手当の講習を受講する方法

“子どもの手当”や“AEDの使用方法”を学べる講習がお勧めです。

##### ① 地域の消防署に講習開催を依頼する。

(目安：上級救命救急(1日コース・2年ごとに更新))

内容は、成人及び小児、乳児、新生児に対する心肺蘇生法(人工呼吸や心臓マッサージ)及びAED取扱い、気道異物除去、止血法、外傷の手当、搬送法などを勉強します。

##### ② 消防署や日本赤十字社等が開催する講習会を受講する。

#### (2) 関係機関の位置・連絡先の把握

##### ① 最寄りの医療機関の場所・連絡先

##### ② AED(自動体外式除細動器)の設置場所

※AEDとは:**心室細動**の際に機器が自動的に解析を行い、必要に応じて電氣的なショック(**除細動**)を与え、心臓の働きを戻すことを試みる**医療機器**。その利用は**一般市民**でも、問題なく使用できます。



応急手当講習の受講状況



AEDの設置事例

## 応急手当の際の一般的な注意事項

### ① “医師に渡すまでの手当て” をしましょう

- ・ 応急手当は傷病人を正しく救助して医師に渡すまでの行為です。
- ・ 医師でない者は治療をしてはいけません（医師法）。
- ・ 傷病者の生死判定をしてはいけません（生死判定をするのは医師のみ）。

### ② “回りに声掛け” をしましょう

- ・ 被害者の不安を和らげるように声掛けしましょう。
- ・ 協力者を見つけましょう。

### ③ “子どもたちと受け入れ者自身の安全” を確保しましょう（2次被害の防止）

- ・ 傷病者を安全な場所を確保しましょう。
- ・ 受け入れ者自身も安全な場所を確保しましょう。

### ④ “傷病者以外の子どもたち” も忘れずに配慮しましょう

- ・ 応急手当中は協力者に託すか安全な場所で待機させましょう。

### ⑤ 原則として “医薬品の使用” は避けましょう

（医師法・薬事法）

- ・ 医師や薬剤師以外の者は傷病者に薬を勧めてはいけません。
- ・ 本人に選択させる前に学校の先生へ確認を取りましょう。
- ・ 救急箱を見せるなどして、“本人” に薬を選ばせましょう（薬事法）。



### 参考：熱中症・日射病の症状と応急手当の違い

	熱中症	日射病
症状	①息づかい弱く ②冷や汗をかく ③血圧低下↓ ④顔色は土色から青色	①息づかい荒く ②血圧上昇（高血圧）↑ ③顔色は赤色
応急手当	①体を冷やさない ②足は心臓より高く↑ ③意識ある場合は、“弱食塩水”を“少しずつ”与える	①体全体を冷やす ②意識ある場合は、“水やスポーツドリンク”を“たっぷり”与える

## 参考：スズメバチに刺された時の応急手当の流れ

①安全な場所へ避難した後、刺された傷口を水でよく洗い流し、医療機関で処置してもらいましょう。

※**基本的知識の把握**：口では吸わない、アンモニアは効かない等

②もし、**呼吸器系の症状・異常症状があらわれた時は**、刺された本人が「**エピペン（エピネフリン）**」を注射しましょう。

・放置した場合、5～30分で死亡する場合もある。

・エピペンは**アナフィラキシーショック**

を10～20分ほど緩和。

→ 救急車が到着するまで時間を稼ぐためです。

（法的な解釈：反復継続性がない

→医療行為には該当しない。）



③すぐに医療機関の**治療**を受ける。

・手当と合わせて、**救急車を呼ぶ**あるいは**病院に連れて行く**。

参考：**アナフィラキシー・ショック**の主な症状(食アレルギーやハチの毒等で発生)

症状名	自覚症状	他覚症状
全身症状	不安感、無力感	冷汗
循環器症状	心悸亢進（動悸）、胸内苦悶	血圧低下、脈拍微弱、脈拍頻数、チアノーゼ
呼吸器症状	鼻閉、喉頭狭窄感（気道が狭くなる）、胸部絞扼感（しめつけ感）	くしゃみ、咳発作、喘鳴（ゼーゼー、ヒューヒューという呼吸音）、呼吸困難、チアノーゼ
消化器症状	悪心（吐き気）、腹痛、腹鳴、便意、尿意、口内異物感	嘔吐、下痢、糞便・尿失禁
粘膜・皮ふ症状	皮ふそう痒感（かゆみ）	皮ふ蒼白、皮ふの一過性紅潮、じん麻疹、眼瞼浮腫（まぶたの腫れ）、口腔粘膜浮腫、舌の腫脹（舌の腫れ）
神経症状	口唇部しびれ感 四肢末端のしびれ感 耳鳴、めまい、目の前が暗くなる	けいれん、意識障害